

アグリ筑西

2022 11月号

朝晩の冷え込みに、冬が近づいていることを感じます。昼夜の寒暖の差が激しいので、お体にお気を付けください。

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
筑西地域農業改良推進協議会 発行
Tel : 0296(24)9206
Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

肥料価格高騰対策事業(国補)のお知らせ

農業経営への影響緩和のため化学肥料の低減に取り組む農家の肥料費を支援します。詳しくは県農業技術課「肥料価格高騰対策」HPをご覧ください。HPはこちら！→



【支援対象となる肥料】

令和4年6～10月に注文・購入した秋肥。
令和4年11月～令和5年5月に注文・購入した春肥。
(春肥の申請×切は2月中の予定です。それまでに注文・購入をしてください。)

【支援の内容】

化学肥料の2割低減の取組を行う農業者に対して、肥料コスト上昇分の7割を国が支援します。

【支援対象者の要件】

農産物を販売し、化学肥料使用量の2割低減に取り組む農業者
(販売開始前の新規就農者の方は、認定新規就農者であることが要件です)。



【申請先】肥料を購入したJAや肥料販売店などにお申し込みください。

【申請に必要な書類】

- ① 注文時期、購入数量、購入価格が明記されている肥料の注文書
(予約せず店頭で購入した肥料は注文書がなくても申請可です)。
- ② ①の領収書または請求書。
- ③ 化学肥料低減の取組を2つ以上記入した「化学肥料低減計画書」。その他、要件を確認する「誓約・同意書」、支援金の受取口座の振替依頼書など。

【申請スケジュール(秋肥分)】

- ① 申請開始は令和4年10月中(農業者の方は申請先へ書類を提出)。
- ② 申請期限は11月中旬頃。

【問い合わせ先】県西農林事務所農業振興課 TEL : 0296-24-9169

第4回農業学園「土づくり講座」を開催しました！

9月30日に、農業学園第4回講座「土づくり講座」(広域講座)を、茨城県農業大学校園芸部講堂で開催し、農業学園生19名(筑西地域：15名、結城地域：2名、坂東地域：2名)が参加しました。

第1部では、土壌について理解を深めるために土壌の役割や性質について学びました。普及センターから、土壌の性質を決定する「物理的要因」、「化学的要因」、「生物的要因」について詳しく説明しました。

第2部では、堆肥・肥料について学びました。普及センターから、肥料の種類や成分、各成分の植物に対する役割、施用時の注意事項などについて説明しました。

学園生からは、「土壌についての基礎的な知識を学ぶことができた」、「土壌診断をしてみたい」等の感想があり、活用度の高い有意義な講座になりました。

○次回講座「マーケティング講座」

日時：令和4年10月28日(金) 13:30~15:50

場所：結城地域農業改良センター大会議室
(八千代町若1517-5)

連絡先：県西農林事務所経営・普及部門 小林・友部
TEL : 0296-24-9218



講義中の様子

かんしょの生産拡大について

焼き芋や干し芋等の人気の高まりにより、国内外で需要が拡大している「かんしょ」の生産拡大を図るため、県では、令和元年度から、生産から流通まで一貫した支援を行っています。

直近3年間で、全国のかんしょ作付面積は約2,000ha減少する一方で、茨城県では6,860ha (R1) から7,220ha (R3) となり、主産県では本県のみが増加しています。

県西地域においても、葉タバコや梨等の園芸品目からの転換や企業等の新規参入により、ここ数年でかんしょの生産者数、作付面積はともに大幅に拡大してきております。

今後は、園芸品目を栽培していた肥沃な圃場での安定生産に向けた技術的なサポート、農地のマッチングによる作付面積の拡大の支援に加えて、需要先とのマッチングなどを引き続き支援してまいります。

詳しくは、下記までご連絡ください。

かんしょの技術的なサポート→普及センター（野菜担当）0296-24-9206
 農地や需要先のマッチング、かんしょに関する補助事業
 →企画調整課（担当：野原）0296-24-9164



再生した農地の様子

カラスムギ防除対策の現地実証事例を紹介します

4処理 2年連用 → カラスムギの発生はみられなくなりました！
 +手取り！ その結果
 収量が3.8倍に増 コストに見合う収益増



収穫放棄

収量低下

近年、麦畑に発生するカラスムギが問題となっています。このことに対し、茨城県農業総合センターでは、普及センター等と連携して、対策のための技術体系化チームを設立し、令和4年度から活動を始めています。今回、その成果の一部として、現地実証事例をご紹介します。



耕起後播種1か月間	カラスムギ発芽後	麦播種	小麦1~2葉期	小麦3~4葉期
11月上旬	11月上旬	12月上旬	1月下旬	2月下旬

	カラスムギ生体重 (g/m ²)	収量 (kg/10a)	肥料コスト増 (a) (円/10a)	除草剤+手取り除草 によるコスト増(b) (円/10a)	増収による 収入増(c) (円/10a)	収支増 (c)-(a)-(b) (円/10a)
無処理	1,500	94	0	0	0	0
体系処理1年目	400	259	8,995	6,914	21,853	5,945
体系処理2年連用	0	360	8,995	6,914	35,212	19,304
3年目以降	0	360	8,995	3,411	35,212	22,806

安全確認と予防対策で公道での農機による事故を防ぎましょう

農林水産所の最新の調査によると、近年300人前後の人々が農作業中の事故で亡くなっています。農機事故を未然に防ぐために備えるべき機器や操作時の安全確認と予防対策をもう一度考えてみましょう。

事故発生要因

○単独事故
用水路等への転落や、傾斜地での横転等



出典：農林水産省HP

○追突事故
夜間等における追突

事故防止対策

詳しくは農林水産省HPをチェック→



- 確実な運転操作とブレーキ連結の確認
農機による死亡事故は、ハンドルやブレーキ操作ミスによる単独事故が多いため、道路状況等に応じた確実な運転を行いましょう。道路走行時は必ず左右のブレーキを連結しましょう。
- 安全キャブ・フレームの装着とシートベルト・ヘルメットの着用
救命効果の高い安全キャブやフレームが付いているトラクターを利用しましょう（安全フレームは倒さずに使いましょう）。
- ランプ類や低速車マーク等の取り付け
一般車両との接触や追突を防ぐためには周囲に気づいてもらうことが大切です。「低速車マーク」や「反射板」を設置しましょう。

低速車マーク

